

# 猪の瀬戸湿原便り

第3号

平成21年10月22日 発行：猪の瀬戸湿原再生実験野焼き実行委員会事務局

## 湿原の植物が姿を見せる

わたくしたちが猪の瀬戸湿原の再生保護活動に取り組み始めて約5年経ちますが、野焼きを中止して以来、



湿原内に咲くサクラソウ

見かけることが少なくなっていた湿原本来の植物が少しずつ目につくようになりました。

今年も、設定調査区の植生調査を毎月実施してきましたが、オギ群落、ヨシ群落の刈り取り区を中心とした周辺部は、手を加えていない部分より草たけが低く、時期を追って本来の湿原植物を観察することができました。

まず、4月の下旬に絶滅危惧種（IB）のサクラソウが開花し、エビネ（IB）、サワギキョウ（IB）、ノハナショウブ（準）、キスゲ（準）、カキラン、ミズチドリ（II）、シラヒゲソウ（II）、コウライトモエソウ（IB）、アケボノソウ、マアザ

ミと秋の終わりまで貴重な植物を続いて観察することができました。（）内はレッドデータブックのカテゴリー

このことは、一見、喜ばしいことですが、注意しないと心無い、魔の行為を誘発することにもなります。気づかれた方もあるようですが、春、道路沿いの一角に車からでも確認できるサクラソウの群落が目立ちました。急斜面を革靴のまま湿原にくだって群落に近づいている人もいます。

由布岳山麓のサクラソウ群落は開花期にロープを張って群落内への立ち入りを制限しています。

猪の瀬戸湿原も、とりあえずサクラソウ群落保護に向けて、来年は所有者のセントレジャー城島や環境省と協議して保護対策に取り組む必要がありそうです。

また、過去の猪の瀬戸湿原調査でヒメユリが記録されています。ヒメユリはレッドデータブックで絶滅危惧種（IA）に指定され、大分県希少野生動植物として県条例で保護の対象種となっていますが、最近、その生育が確認できていません。本年度、可能性のあるところを探しましたが、花を確認することができませんでした。

来年は外来種イタチハギの駆除作業に加えて、このヒメユリ確認活動を積極的に行いたいと考えています。

将来的には年間を通じて豊富な湿原の動・植物を観察できる観察道が設置され、自然教育園とし機能することが望まれます。



確認が必要なヒメユリ

（由布山麓で井上千鳥さん撮影）



コウライトモエソウ

絶滅危惧種（IB）

